

**[成果情報名]炭疽病抵抗性・極早生性で低温でも生育旺盛なイチゴ品種「かおり野」**

**[要約]**イチゴ新品種「かおり野」は炭疽病抵抗性を持ち、極めて花芽分化し易く、普通促成栽培で11月中旬から収穫できる。低温条件でも生育が旺盛で、収量が多く、果実が大きく、高糖度かつ低酸度の良食味を持つ。全国的な普及が進みつつある。

**[キーワード]**イチゴ、品種、炭疽病抵抗性、極早生

**[担当]**三重農研・園芸研究課

**[代表連絡先]**電話 0598-42-6358

**[分類]**普及成果情報（平成22年度）

---

**[背景・ねらい]**

イチゴ炭疽病は深刻な被害を引き起こす重大病害であるが、既存品種には抵抗性を持つものは極めて少ない。また、生産者の収益性向上のため、イチゴの販売単価が高い年内の収穫量を確保するため、花芽分化が容易な極早生品種が求められる。さらに、消費者の支持を得るため、食味がよい高品質な果実特性を有することは、品種としての前提条件になる。これらの特徴を併せ持つ新品種「かおり野」は、生産者の関心が高く、全国各地で栽培が始まっている。

**[成果の内容・特徴]**

1. 「かおり野」は、「女峰」、「愛ベリー」、「とよのか」、「宝交早生」、「章姫」、「あかしゃのみつこ」、「とちおとめ」および「サンチーゴ」の8品種を基に、炭疽病抵抗性選抜と系統間交配を繰り返して育成した（図1）。
2. 「かおり野」は炭疽病抵抗性を有する。しかし、全く発病しないわけではないため、感染株からの拡大を防止するため防除を要する（図2）。
3. 頂果房、第1次腋果房とも、「かおり野」の出蕾は早生性品種「章姫」に比べて明らかに早い。「かおり野」は、8月27日では花芽分化開始しておらず、全て出蕾遅延株になるが、9月6日には大多数の株が花芽分化開始に至り、9月11日には全ての株が花芽分化を開始する。しかし、定植が早いと、生育が旺盛になりすぎるため、9月15日頃が定植適期になる（表1・一部データ略）。
4. 「かおり野」は、出蕾遅延になった場合でも、11月上旬には集中して出蕾し、12月から収穫できる（表1）。
5. 「かおり野」は、年内収量が多く、総収量も多くなる。大果で、高糖度・低酸度で果実硬度も高い（表2）。

**[普及のための参考情報]**

1. 種苗業者による苗の生産・販売を対象にした種苗生産許諾と生産者団体を対象にした生産者団体許諾の他、個人生産者を対象に果実の生産・販売を許諾する生産者許諾の制度を設け、団体に属さない個人生産者にも門戸を開いている。
2. 許諾料額以外に、三重県内と県外の生産者の間に、許諾に関する差はない。
3. 生産者は三重県の許諾（申請中を含む）を得た後、種苗業者から苗を購入できる。種苗業者は許諾を得た者以外に苗を販売することはできない。
4. 許諾手続きに関するHPアドレス

<http://www.mate.pref.mie.lg.jp/marc/kaorino/kaorino.htm>

[具体的データ]

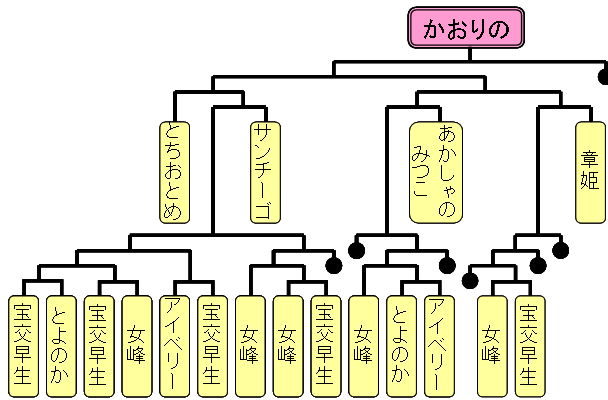


図1 「かおり野」系統図の概要  
黒丸は省略を意味する

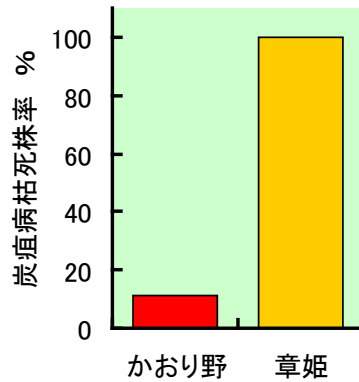


図2 過酷条件における炭疽病枯死株率の比較  
炭疽病胞子懸濁液接種後、気温 28℃、湿度 80%以上に保ち、3週後に調査した枯死株率

表1 頂花房と第1次腋花房の出蕾日の分布と出蕾遅延株率の比較

品種	液肥最終日	定植日	9月					11月					12月					1月	出蕾遅延株率			
			27	2	7	12	17	22	27	1	6	11	16	21	26	1	11			16	21	31
章姫	8/20	8/27							1	3	9	3	1	6	4			1		1		100
		9/1			1						4	8	1	2	2	1	1	1	8	2	1	94
		9/6				2	3			1		4	5			1	2	3	3	4	1	67
		9/11				2	4	10								12	4					0
		9/16						13	2			1			2	9	2	1				0
かおりの	8/20	8/27							1	15		1		3	7	1		1	1		100	
		9/1			3	1	1			9	1	1		3	7	4		1	1		69	
		9/6			4	8	4			4		4	4		3	1					0	
		9/11				2	14			9		1	5		1						0	
		9/16					1	10	5	4		4	4		3	1					0	

■ 頂果房出蕾株数 □ 第1腋果房出蕾株数

表2 早晚性、収量性および果実品質の比較<sup>1</sup>

品種	収穫開始日	可販収量(g/株)		可販果平均果重(g) <sup>3</sup>	糖度(%) <sup>4</sup>	酸度(%) <sup>4</sup>	糖酸比	果実硬度(g) <sup>5</sup>
		年内収量	総収量 <sup>2</sup>					
かおり野	11/19	254	728	17.1	11.4	0.51	23	107
章姫	11/25	200	619	15.9	10.4	0.57	18	84
サンチーゴ	12/23	58	532	16.7	10.2	0.65	16	90

<sup>1</sup> 2006、2007年の2ヶ年の平均値を表示。無加温の二重被覆ビニルハウスで慣行の土耕栽培法により、1区8株2反復で栽培した。

<sup>2</sup> 総収量は4月末までの株当たり収量。 <sup>3</sup> 可販果は8g以上の正常果。

<sup>4</sup> 糖度および酸度は、1月に収穫した10~20果について解凍浸出液を測定した。糖度はBrix値、酸度はクエン酸換算値(g/100ml)。

<sup>5</sup> 果実硬度は、1月に収穫した10~20果について、直径3mmプランジャーにより貫入抵抗値を測定した。

[その他]

研究担当者： 森利樹、北村八祥、小堀純奈

発表論文等： 品種登録第 19529 号 (2010 年 5 月 10 日)